

地域の農を支える生産者

箕面市新稲地区

いなじ たかし

稲治 昂さん

(76歳)



アネモネ

農地は農地で維持し、

年中咲き誇る花園に。



ランンキュラス

職したことを期に、本格的に取り組み始めました。

Q 生産のこだわりについて

A 野菜については減農薬にこだわっています。タマネギやジャガイモ・サツマイモなどを箕面市の学校給食に提供しているので、子どもたちが口にするものには極力農薬を使用せずに安心と安全を届けたいという想いで栽培しています。減農薬というと、大阪エコ農産物の承認がありますが、承認を得るには厳しい審査が必要で、それをクリアするのに苦労しました。大阪エコ農産物を求めて来て下さるお客さまもいらつしやるので、こだわってつくり続けています。また花については綺麗な状態を長く楽しんでもらうことを考えて、花ごとの切り前(収穫適期)に注意し、最適なタイミングで収穫しています。花は温度が上がると開いてしまうので、前日の早朝や夕方など気温の低い時間帯に収穫するように心がけています。1年を通じて花を収穫・供給できるように様々な品種を育てています。

Q 始めたきっかけについてお聞かせください。

A 父の代に草花を栽培し始めました。今では様々な色がある「ガーベラ」ですが、大阪に持ち込まれた最初の地区が新稲で、当時は新稲の特産品でした。戦前は造園業、戦後に乳牛を飼う酪農を行っていました。しかし生きものなので、なかなか管理も難しく大変なことが多かったことから、花き栽培に切り替えました。私自身は前職の市役所を退



## 主な商品

▼これからの季節

ヒマワリ(6~10月)・夏菊(6~12月)・葉牡丹(年末)

アネモネ・キンギョソウ・ラナンキュラス・ルリタマアザミ

その他季節の花や野菜



スターチス



キンギョソウ



ミモザ



切り前に注意し、  
最適なタイミングで収穫



◎ 大変だったこと・嬉しかったことはありますか。

A やはり自然を相手にする仕事ですので、どうしようもならないことは多々あります。天気予報は1日3回も4回も確認しますが、予報が外れ失敗することもあります。温度管理が必要な花はビニールハウスで育てているのですが、強風でビニールが剥がれ、花が倒れてしまいました。ビニールを張りなおすことも大変でした。気候・水の量・害虫によつて例年と同じように作つても出来が悪いこともあります。害虫は繁殖してからでは退治することは難しいので、予防を心掛けています。他にもヒマワリの新芽をナメクジに食い荒らされてダメになっ

たこともあります。嬉しかったことはお客様にお褒めの言葉をいただいたときですね。「稲治さんのお花は綺麗で長持ちする」と言われると、とても嬉しい気持ちになります。花を求めて遠方から来て下さるお客様もいらつしやるそうです。

◎ これからの目標や夢をお聞かせください。

A 花の栽培と野菜づくりを元気に続けることが目標です。近年は新稲の農地が資材置き場になるなど減少傾向にあります。農地を守り、絶やさないようにしていきたいです。また、いろいろな品種の農産物を多くのお客様にお届けすることが出来たらと思っています。